



特別の教科 道徳

校長 赤尾 眞司

長雨のうちにも夏が待たれる季節となりました。むしむしとする毎日ですが、晴れた日の校庭では、子供たちの元気な声が聞こえてきます。水泳指導も始まり、夏の日差しが待ち遠しい日々です。

7月になりました。あと3週間で子供たちが楽しみにしている夏休みです。この7月は夏休み前の学習のまとめの時期でもあります。これまでに学んだことを積み残さないように、学びの定着に努めて参ります。また、5年生は岩井移動教室があります。集団生活の楽しさが味わえる3日間に行いたいと考えています。各学年で保護者会や個人面談が計画されています。担任とよく話し合っ、ここまでの学習や学校での生活を振り返ってください。

道徳授業地区公開講座

6月9日(土)、本校では道徳授業地区公開講座を実施しました。当日は全学級で道徳科の授業公開を行うと共に、講演会として、全校で尺八と箏の演奏を聴きました。道徳科の授業では、各学級、教材や授業展開を工夫して取り組みました。

講演会では、日本の伝統文化を学ぶという視点から「尺八と箏のコンサート」を開催しました。尺八は山本 邦山 先生、箏は合田 真貴子 先生をお招きしました。当日は、春の海から始まり、尺八と箏の代表的な曲を鑑賞しました。子供たちが知っている曲の演奏もあり、一緒に合唱して楽しむことが出来ました。保護者の方からも「なかなか鑑賞することのできない尺八と箏の演奏、とても素晴らしいひとときになりました」などのご意見が寄せられました。子供たちにとっても、心に残る楽しいコンサートでした。



さて、保護者の皆様は道徳の授業にどのような印象をお持ちでしょうか。私が教員に成り立ての頃はといえば、道徳のテレビ(さわやか3組が印象的でした)を見て、感想をまとめ発表する授業が中心だったと記憶しています。今年度から「特別の教科 道徳」が実施になりました。道徳も、国語や算数と同じように、道徳科として教科になり、教科書が出来ました。

道徳教育は、人が一生を通じて追究すべき人格形成の根幹にかかわるものであり、民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものと示されています。また、道徳教育を通じて育成される道徳性は、「豊かな心」だけでなく「確かな学力」や「健やかな体」の基盤となり、「生きる力」を育むために重要なものとなります。学校教育では、道徳教育は教育活動全体を通じて取り扱ひ、その要になるのが道徳科の授業になります。

では、道徳性を養うための道徳科における学習では、どのような内容を扱っていくのでしょうか。学習指導要領には次の4点が示されています。①道徳的諸価値について理解する。道徳的価値とは、例えば、人間としてよりよく生きる上で大切なことがあると理解すること等があります。②自己を見つめる。これまでの自分の経験や考え方、感じ方などと比べながら、さらに考えを深めることです。③物事を多面的・多角的に考える。例えば友達との対話を通して自己の考えを深めていくことです。④自己の生き方についての考えを深める。自分の体験や考え方を思い出し、それをもとにして考えを深めていくことです。

授業をご覧になった方のアンケートに、次のような記述がありました。『それぞれ自分の考えを発表しながら、他者の様々な考え方や意見を聞き、みんなで考えを深めていく、そのような授業に感じました。』私たち教員が目指していく授業そのものを示す、大変うれしいご指摘です。4つの観点を大切にして、子供たちが学び実践していく力を付けられるように、考え取り組んで参ります。これからの学校公開でも、道徳科の授業を実施していきます。このような観点で授業を見ていただくとありがたいです。子供たちの道徳性を育てるためには、ご家庭の協力が欠かせません。家庭と地域、学校が連携して、子供たちを立派な社会人に育てていきましょう。